

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172400257		
法人名	株式会社やま		
事業所名	グループホームうららびより関ヶ原		
所在地	岐阜県不破郡関ヶ原町大字関ヶ原3384番地の3		
自己評価作成日	令和5年12月21日	評価結果市町村受理日	令和6年3月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&i_gyosyoCd=2172400257-00&SerViCeCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地
訪問調査日	令和6年1月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

令和4年7月にうららびより関ヶ原 彩り館を増床しました。認知症のある高齢の人の日々の生活に彩りを添え、その方々の暮らし方を振り返り、その時々輝き彩られた記憶の中で「確かに生きていた」実感を感じ出してほしいとの想いから名付けられた新ユニットです。同じく職員も自分の生活に彩りを添えてほしい、人を支援する仕事を通じ目標を設定し達成に向け進める喜びをつかみ取ってほしいと考え、うららグループで人材育成教育制度を整えています。共用型デイサービス5年目に入り認知症で独居生活利用者様にはご家族・居宅ケアマネージャーときめ細かく連携を取り合い支援に繋がっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「明るい笑顔と思いやりみんなで創ろうららの歴史」を事業所のスローガンとし、利用者とお話をする時や職員同士が話をする時でも、相手の言葉を一呼吸待つように心掛けている。保育園児やボランティアとの触れあいを再開し、レクリエーションの工夫等で笑顔が増えるケアに取り組んでいる。利用者と一緒に掃除、洗濯や調理等の家事を楽しみながらできるように支援し、心身の維持向上にもつなげている。申し送りノートタイムカードの所に置いたり、ラインで一斉送信しているが、業務の効率化と情報を共有しながら、統一したケアが提供できるよう記録物等にICTを導入している。外部講師を招き研修、キャリアアップできる体制、表彰制度等で働きやすい職場環境にして利用者とは良好な関係を築いている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~42で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
43 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	50 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53 職員は、活き活きと働いている (参考項目:10,11)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:18)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時に職員で考え作成した理念を掲示し「住み慣れた地域で暮らし続けられる」を念頭におきスローガンと共に毎朝唱和し日常の業務の中で振り返りの基としている。	出勤時に目にする玄関に理念を掲示し、事業所のスローガンを毎朝唱和している。職員は、毎年理念に基づいた目標を立てて、理念に沿ったケアを心掛けている。職員の対応で気になる時は、管理者が声かけしたり、申し送りや話をしたりしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症5類移行に伴い少しずつではあるが交流も復活しつつあります。近隣の店舗への散歩や飲食を伴う外出を通じてその場で出会った人との交流もある。	小学生の福祉体験を受け入れ、保育園児やボランティアと交流している。園児からさつま芋と手紙をもらい、利用者が袋詰めした菓子や菓子を保育園に届けたり、職員がサンタクロースや鬼に扮して、園児と触れ合ったりしている。住民から野菜や果物をもらう事もある。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設内の様子を知りたい、どんな生活、どんな利用者さんがおられるのか様子が知りたいとサービス利用者家族の強い要望で推進会議(リアルで3回)に参加され行政民生委員他家族と意見交換や生の在宅介護の実情を聞いている。	会議は、書面又は対面にて開催している。事業所の活動状況、事故やヒヤリハット、行事報告等を行い、地域のメンバーからお祭りや行事の情報や案内をもらっている。書面開催時は事前に意見をもらい議事録を作成し、メンバーや家族に送付している。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	新ユニット増床に関し相互に協力体制をとり開所に向けて指導や連携を取っていた流れや、既設建物の老朽化対応の補助金申請についても助言してもらっている。現在も協力関係を続けられている。	補助金申請、事故報告や更新手続き等の書類提出時に、事業所の実情を担当者に伝えている。町主催や事業者団体の会議に参加して、情報を得たり困難事例の助言を得たりしている。必要時は、メールや電話でのやりとりで良好な関係を築いている。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束禁止の対象となる具体的な事例について研修や職員会議勉強会で安全でかつ自由な生活を実現するため理解を深めるよう取り組んでいる。担当委員を選出しスピーチロック等の行動制限も拘束と認識し「その方の言葉を待つ」を指針としている。	身体拘束等の適正化のための指針を定め、ほぼ毎月委員会を開催し、年2回研修を行っている。スピーチロック等の言葉遣いにも注意し、利用者の言葉を待つ姿勢で接し、拘束しないケアに努めている。センサーマットの使用も職員で、利用者にとって最善の方法なのかを、おりに触れ話し合っている。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止研修会へ全職員が受けられる様に取り組んでいる。厚生労働省の定める権利擁護推進員養成研修に参加終了した職員を中心に職員への虐待防止強化を図っている。	身体拘束・虐待防止対策委員会として、ほぼ毎月開催し職員にも内容を周知している。外部研修にも参加し、事業所内で定期的に虐待の防止のための研修を行っている。不適切ケアにならないよう職員で心掛けている。虐待防止のための指針が確認できなかった。	虐待の防止のための指針を整備し、虐待が見過ごされる事がないように、更に理解を深められたい。

グループホームうららびより関ヶ原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	包括の方とも利用者を通じて交流を行っている。今後成年後見制度について学ぶ機会を持ちたい。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には詳細な説明を行い理解の上契約を結んでいる。改定時には書面にて理解を得よう努めている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	5類になり居室に入り衣替えをしたい外泊をしたいとの要望があり、感染対策をしたうえで実施している。うらら通信や運営推進会議議事録にて施設状況の報告をしている。	面会時や必要に応じて、家族から要望や意見を聞いている。通信を送付時に利用者の日頃の写真を載せて、意見をもらいやすくしている。おせちを食べさせたいの希望で、家族持参のおせち料理をつぶして食べてもらったり、家族の写真を居室に飾って欲しいの要望に応えた。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議にて意見交流を行っている。個々の問題にて基本年2回、希望があれば都度面談を行ったり日々の業務の中での提案を聞く機会を設け、管理者側からも声をかけている。	毎月の職員会議に夜は参加できないの意見から、ズームを利用し参加できるようにした。職員の家庭事情や健康状態に合わせ、時短や土日勤務、業務内容等も希望に合わせている。的確に業務遂行した職員への表彰は、管理者推薦から職員が投票して決定するように変更した。修繕や電化製品の買い換えは本部に確認し指示を得ている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	評価査定の個人自己評価から管理者本部査定へ繋げるように整備されており、個々の努力・実績勤務状況を把握している。	ぎふ・いきいき介護事業者グレード3の認定を受け、職場環境の改善に取り組んでいる。年6回の研修は、外部講師を招へいし受講しやすくしている。夏期のユニホーム支給、年1回の懇親会、資格取得者に金一封、職員の表彰制度で賞状や賞金の贈呈等で、向上心を持って働けるようにしている。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	うららグループの人材育成プログラムの6期目に職員が参加し、仕事への取り組み方にとどまらず自身の人生を振り返り気づきを得る手助けになっている。	事業所が勤める外部研修は、事業所負担で参加し、資格取得の為の模擬試験費用を事業所が負担している。本部に人材育成プログラムがあり、新人、中堅とキャリアアップできる仕組みになっている。新人にはチェックシートにてリーダーがついて指導している。	

グループホームうららびより関ヶ原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員が他のうららグループとの交流、お互いのサービスへの取り組みについて相互理解を深める機会を持ちたいと思っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で家事業を行っていただきながら利用者の方が主体となり作業する時間を作るよう努めている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様が思っていること望んでいることを日頃の会話や職員とのコミュニケーションから思いを把握してプランに反映している。	その人に合わせた声の大きさと、耳元で聞いたり筆談で思いを聞いている。居室や夜間に聞く時もある。困難な人には、顔の表情や行動から把握している。アルコールを希望する人には、誕生日会にノンアルコールビールを提供している。起床や就寝時間も本人の意向に合わせている。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の変化に応じたケアを迅速に行えるようにミニカンファレンスを行い情報収集・共有に努めている。個々の状態を確認し支援方法を考え見直している。	利用者と家族には事前に希望を聞き、医師や看護師の意見も参考に介護計画を作成している。半年に1回の見直しを基本としているが、ケース記録や職員会議での意見等、必要に応じミニカンファレンスを開き変更する場合もある。家族参加の担当者会議は、年2回行っている。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各職員がその日の様子や気づきを記録に残し、共有している。また申し送りノートを活用している。	利用者の日々の様子や気づいた事は、個別ケース記録に入力している。補助金を活用しICT化を図り、アイパッドで確認できるようにしている。日に2回の申し送り、ホワイトボードや申し送りノートにも記載し、職員が周知できるようにしている。緊急の伝達事項はラインで一斉送信している。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族対応が困難な方に対して受診送迎・外出支援を行っている。毎月お便りにて様子をお伝えしている。	家族が同行できない場合は、買い物代行や受診の付き添いを行っている。家族の自宅に向いたり、葬儀の付き添い等、事業所のできる範囲は対応している。年2回介護家族相談会を包括支援センターにて職員が対応している。早朝に目覚めたり夜間就寝できない人へ、お茶やお菓子を提供しホールで過ごしてもらっている。	

グループホームうららびより関ヶ原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域での行事や催し物に参加、今までの馴染みの環境を支援してきたがコロナ禍に伴い以前のような参加は出来ていない。ホームで花や干し柿作りなど世話する中で安全豊かな暮らしを楽しめるよう努めている。また大学とズーム交流でゲームやいちご狩りを行い対面ではなくとも交流できる場を支援している。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週1回の往診時、日頃の様子や観察したことを報告。大事に至らないよう早めに対応している。	入居時に協力医に代わる人もいるが、かかりつけ医を受診時は日頃のバイタル表と体重計測値を記載した書面を渡し、受診後に家族から報告を受けている。希望で歯科の訪問診療を利用する人もいる。協力医は24時間指示が得られる関係で、訪問看護は委託契約している。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院をやむなくされた時は、医療機関を訪れ利用者様の精神的機能的症状の状態を把握し担当看護師との情報交換・収集をしている。また入院中に起こりうる認知症の進行に対し職員が定期的に面会に訪れ利用者の心のケア支援もしている。	入院時は利用者の面会に行き、看護師や相談員から身体状況等を聞き、どのような状態になれば事業所での生活ができるかを伝えている。家族の意向も聞きながら、医療機関と連携し情報交換している。退院時は、退院カンファレンスに参加し、サマリーをもらっている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	毎日時間ごとのバイタルチェック・状態観察を行い、スタッフ全員で共有し異常があればすぐに対応できるよう取り組んだ。	入居時に事業所の方針を伝え、看取りについての指針を作成している。状態に合わせて家族の希望を聞き、次の施設を紹介する場合もある。医師からの説明と家族と一緒に話し合いを経て、事業所でできることを説明し、看取りに対応している。医師や訪問看護師から指導を得て、方針を共有し支援している。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	R5年3月に消防職員による救命講習、AEDの使用訓練を行っている。利用者急変時におけるマニュアル、救急搬送時用に利用者情報提供表の作成を行っている。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の通報避難訓練の実施。水害・地震時の避難マニュアルの作成(避難場所・災害状況の把握方法:インターネット)災害時における連絡先の情報共有(役所や病院、利用者家族の連絡先)	BCPを作成し、利用者の誘導一覧表を見やすい場所に掲示している。水、食料やオムツ等を備蓄し防災頭巾も常備している。年2回の消防署立ち会い訓練と毎月通報訓練や参集訓練を実施しているが、夜間想定訓練や住民の協力が得られていない。	夜間は特に一人での避難誘導となり、地域の方の協力が必要となることから、非常時に慌てない為の訓練や地域の方の協力が得られる為の取り組みを期待したい。

グループホームうららびより関ヶ原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人それぞれこだわりの強い部分がある場合には否定せず、できる限り納得されるまで傾聴したり言葉遣いに気を付けている。	利用者一人ひとりに合わせた声かけで、きつい言葉遣いにならないようにしている。過剰な声かけや名前を連呼しない、背後から声かけしない等を常に心掛け、顔を見て話すよう心掛けている。居室入口には表札を掲げず、花の名前の掛札にしている。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	集団生活を送る中で、個人的な思いを聞くことができるよう声かけに努めている。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その行動にはどんな思いがあるのかを推し量り、業務優先することなく見守れる心の余裕が持てるようにしていきたい。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自分で収穫したみかんの皮むきやサラダに入れる卵の殻むきなど食事のための準備、食後の食器拭きと一連の流れの中で思いを馳せながら食事を楽しんでいただいている。	本部からのメニューを基に、行事食や希望する誕生日メニューにしている。下拵え、盛り付けや食器拭き等を職員と一緒にしている。事業所で栽培した夏野菜を調理したり、干し柿づくりや柚の砂糖漬けを作っている。ラーメン外食にしたり、ホットケーキやゼリーの手作りおやつで楽しみな時間にしている。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定時の水分摂取を設け、摂れない方へは随時補い、一日を通して不足のないよう記録をとっている。また普段の食事摂取量を把握し、変化にいち早く気付けるよう努めている。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後それぞれに行っていたいが、不足と思われる場合には支援を行い、残存歯のぐらつき・舌苔・義歯の装着状況など確認しています。	毎食後、口腔ケアを実施し、歯ブラシ、口腔ケアスポンジを使用し、その人に合わせて確認や仕上げの介助をしている。義歯は洗浄し夜間預かりにしている。昼食と夕食前に口腔体操を行い、誤嚥を防いでいる。毎月、歯科医と歯科衛生士から利用者に合わせて、助言と指導を受けている。	

グループホームうららびより関ヶ原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、排泄表をもとに早めの声かけや誘導を行っている。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	可能な限り入浴の仕方・長さなどの要望に応じ、満足感をもって入浴を終えていただけるよう配慮している。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の睡眠パターンを把握して日中は活動的に過ごし穏やかな気持ちで眠りに就けるよう声かけ見守りに努めている。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	体調の様子観察をしっかりと行い、その方らしい生活を送ることに困難が見られるようであれば見直しを行っている。	薬の情報は個人ファイルに綴り、変更時は申し送りして周知している。事業所内で「薬の副作用と安全な管理」の研修を実施している。看護師が薬をセットし、服用前に日付、朝昼夕、名前を読み上げ、落薬がないよう飲み込みまで確認している。空き袋と薬箱の中を確認し廃棄している。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コミュニケーションを多くとり、趣味嗜好品をレクリエーションや食事に取り入れている。	モップ掛け、手摺り拭き、洗濯物たたみ、果物や野菜の収穫、調理の手伝い等と一緒にやっている。編み物、塗り絵、葉書き書き、ボーリングやカラオケ等で利用者が楽しんだり、気分転換できるようにレクリエーションを工夫している。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホームテラスでの日光浴や近隣の散歩・ドライブなどスタッフを充実させ安全に行えるよう配慮している。	花見、紅葉狩り、藤、初詣、神社や公園等に月1回はドライブに出掛けている。喫茶店や買い物に行きたい希望をできるだけ叶えている。家族の協力を得て外食、墓参、法要や自宅で外泊等をしている。駐車場でお茶を飲んだり、果物や野菜の収穫をしたりして外気に触れる機会を作っている。	

グループホームうららびより関ヶ原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員と一緒に買い物に出かけ支払いもできるように支援している。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	特に制限なく手紙や電話ができるが、家族の状況により様子をみて行う。zoom面会も定着している。年賀状も作成する。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	心地よく過ごせるよう清潔・整頓を心がける。定期的に換気を行う。	玄関に季節の花を飾り、リビングには手作りのカレンダーや行事の写真を飾っている。飾り終えた写真は、それぞれの利用者別にアルバムにしている。空気清浄機を設置し、日に3回の換気と手摺り等を消毒し、感染症予防に努めている。利用者同士の席の配置にも配慮し、居心地よく過ごせるようにしている。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自席では同じテーブルの方と会話をしたりソファではテレビを見たり周りの方と談笑して過ごせる。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物・写真・作品などを置き、居心地の良い空間作りをする。また危険を伴うものは本人・家族と相談し検討する。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりやエレベーターで自室へ行くことができる。食堂では車イスが必要な方は移乗しやすい席に座っていただく。夜間センサーの使用。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172400257		
法人名	株式会社やま		
事業所名	グループホームうららびより関ヶ原		
所在地	岐阜県不破郡関ヶ原町大字関ヶ原3384番地の3		
自己評価作成日	令和5年12月21日	評価結果市町村受理日	令和6年3月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhi.w.go.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&i_gyosvoOd=2172400257-00&SerVi.ceOd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地		
訪問調査日	令和6年1月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~42で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時に職員で考え作成した理念を掲示し「住み慣れた地域で暮らし続けられる」を念頭におきスローガンと共に毎朝唱和し日常の業務の中で振り返りの基としている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症5類移行に伴い少しずつではあるが交流も復活しつつあります。近隣の店舗への散歩や飲食を伴う外出を通じてその場で出会った人との交流もある。		
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設内の様子を知りたい、どんな生活、どんな利用者さんがおられるのか様子が知りたいとサービス利用者家族の強い要望で推進会議(リアルで3回)に参加され行政民生委員他家族と意見交換や生の在宅介護の実情を聞いている。		
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	新ユニット増床に関し相互に協力体制をとり開所に向けて指導や連携を取っていた流れや、既設建物の老朽化対応の補助金申請についても助言してもらっている。現在も協力関係を続けられている。		
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束禁止の対象となる具体的な事例について研修や職員会議勉強会で安全でかつ自由な生活を実現するため理解を深めるよう取り組んでいる。担当委員を選出しスピーチロック等の行動制限も拘束と認識し「その方の言葉を待つ」を指針としている。		
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止研修会へ全職員が受けられる様取り組んでいる。厚生労働省の定める権利擁護推進員養成研修に参加終了した職員を中心に職員への虐待防止強化を図っている。		

グループホームうららびより関ヶ原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	包括の方とも利用者を通じて交流を行っている。今後成年後見制度について学ぶ機会を持ちたい。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には詳細な説明を行い理解の上契約を結んでいる。改定時には書面にて理解を得るよう努めている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	5類になり居室に入り衣替えをしたい外泊をしたいとの要望があり、感染対策をしたうえで実施している。うらら通信や運営推進会議議事録にて施設状況の報告をしている。		
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議にて意見交流を行っている。個々の問題にてカンファレンスを行い対応の統一を行っている。		
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	評価査定の個人自己評価から管理者本部査定へ繋げるように整備されており、個々の努力・実績勤務状況を把握している。		
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部講習含めスキルアップ・キャリアアップできるように支援している。		

グループホームうららびより関ヶ原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	職員が他のうららグループとの交流、お互いのサービスへの取り組みについて相互理解を深める機会を持ちたいと思っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できることはやっていただくということで、洗濯たたみ、トレー食器拭き、食材を洗ったりゆで卵の殻むき・みかんの皮むきなどを一緒に行っている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様が思っていること望んでいることを日頃の会話や職員とのコミュニケーションから思いを把握してプランに反映している。		
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の変化に応じたケアを迅速に行えるようにミニカンファレンスを行い情報収集・共有に努めている。個々の状態を確認し支援方法を考え見直している。		
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各職員がその日の様子や気づきを記録に残し、共有している。また申し送りノートを活用している。		
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族対応が困難な方に対して受診送迎・外出支援を行っている。毎月お便りにて様子をお伝えしている。		

グループホームうららびより関ヶ原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域での行事や催し物に参加、今までの馴染みの環境を支援してきたがコロナ禍に伴い以前のような参加は出来ていない。ホームで花や干し柿作りなど世話する中で安全豊かな暮らしを楽しめるよう努めている。また大学とZoom交流でゲームやいちご狩りを行い対面ではなくとも交流できる場を支援している。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者本人と家族との連絡を密にし、かかりつけ医を中心とした受診連携を取りその場その場で必要に応じた医療を受けていただくように支援し家族との話に寄り添い受診が必要であれば家族に職員も付き添い受診を行っている。		
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院をやむなくされた時は、医療機関を訪れ利用者様の精神的機能的症状の状態を把握し担当看護師との情報交換・収集をしている。また入院中に起こりうる認知症の進行に対し職員が定期的に面会に訪れ利用者の心のケア支援もしている。		
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	できるだけできることを本人様にとって苦痛のないように今後のあり方・どうしていけば本人様にとって一番良いのかを家族・主治医・訪問看護師・職員と話し合いを持ちつつ支援している。		
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	R5年3月に消防職員による救命講習、AEDの使用訓練を行っている。利用者急変時におけるマニュアル、救急搬送時用に利用者情報提供表の作成を行っている。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の通報避難訓練の実施。水害・地震時の避難マニュアルの作成(避難場所・災害状況の把握方法:インターネット)災害時における連絡先の情報共有(役所や病院、利用者家族の連絡先)		

グループホームうららびより関ヶ原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけには注意しているが、対応が出来ていない時もある。以前指導があった居室のポータブルトイレは移動は難しいため布で覆い、使用時以外は分からないようにしている。		
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の中でご本人とコミュニケーションをとり思いを引き出せるよう努め、ご自身で選択・決定できる言葉かけを行うよう努めている。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合になってしまいがちではあるが、個々のペースや体調に合わせ支援している。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に食事をしコミュニケーションを取りながら召し上がっていただいている。畑で採れた野菜や果物の下処理等を手伝っていただいたり旬のものを提供している。		
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量は毎回記録に残し、塩分・糖尿等提供時量や嚥下状態に合わせた食事形態、薄味にしている。体重管理、栄養スクリーニング。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個々に行っていただいている。お一人で難しい方はお声かけや見守り、必要に応じ介助し口腔内の清潔保持に努めている。		

グループホームうららびより関ヶ原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を確認しながら、排泄状況を見てお声かけ、必要に応じて誘導を行う。失禁がみられない方は入居後リハビリパンツから布パンツに変更。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	職員の人員の都合で時間帯を決めてしまっていることが多く感じる。その中でも入浴を楽しんでいただけるようにプライバシーの保護、職員との会話、リラックスできる環境づくりに努めている。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご自宅でベッドではなく布団で寝起きされていた方は布団対応に。お好きな時間に体調に合わせて居室で休んでいただいている。定期的なシーツ交換・布団干し。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更追加があれば申し送りに入力し職員全員に共有できるようにしている。薬服用後の継続的な状態観察、必要に応じ報告し訪問看護師・かかりつけ医と連携。		
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たみや食器拭き、食事の下ごしらえを一緒に行う。月ごとの季節行事のドライブ外出の開催。テラスに出て日光浴をしながらお茶を飲む。		
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	なかなか個別外出の希望があっても外へ行くことが人員的に厳しい時が多々ある。家族に協力をお願いして例えば受診の際にご本人の希望をかなえてもらうように努めている。事前に計画を立て人員を確保し、花見や紅葉狩り、初詣を行っている。		

グループホームうららびより関ヶ原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で管理できる方には自分で所持していただき、頼まれれば職員が購入してきて代金をお支払いしていただいている。買い物へ出かけて金額を決めてほしい物を買っていただく支援をしている。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	近い方からお電話があればおはなししていただいている。お手紙が届けばお渡しして、読めない方には一緒に読み内容をお伝えしている。ご家族様にお手紙書きませんかと定期的にお声かけをしている。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	定期で手すり・テーブル・椅子のアルコール消毒、洗面所・トイレの清掃を行っている。日光の入り具合でカーテンの開け閉めをして室温を気にしながらの換気、季節を感じる飾り付けをしている。		
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お一人になりたい時などいつでも自由に居室へ行っていただいている。リビングのソファは誰でも座っていただけるよう中央に置いている。何か作業する時はご自分の席にてしていただくが、お話ししたい時など席の移動は自由。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご家族様をご用意していただいた物を使用し、配置は安全な移動ができるよう考えている。部屋に何かを置きたい何かを使いたいと言われれば危険性がないかと第一に考え、了承または代替案を提案している。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室から近いところに自席をご用意している。車椅子の方が安全にご移動できるように導線の確保。		